

インターンシップ受け入れ企業による感想と評価

一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会 永島拓也 様

一般社団法人日本ワーキング・ホリデー協会の中部・東海エリアマネジャーの永島拓也と申します。よろしく申し上げます。

【受け入れのきっかけ】

私からは、まず、インターンシップの受入れのきっかけからお話をさせていただければと思っております。

まず、インターンシップは、御校の短大（名古屋経営短期大学）の島宗先生からのご紹介ということもあったのですが、まず、私は「インターンシップ」と聞いたときに、私たちの戦力になるということの一つとして置かせていただきました。

もちろん、仕事の関係で私たちもインターンシップ生にはお任せできない仕事もありますが、大学生は、とても将来を考えてくれているところがあるのです。私たちの仕事のワーキング・ホリデーは、海外に留学の支援をするような形になっております。ホームステイのサポートや現地の学校・大学の手配を行っています。私たちの基本的なターゲットというのは18歳から30歳までとなっておりますので、大学生が今、何を考えているのかということは、正直に言うと、私たちも知りたいところではありました。ですから、今回の提案は、とても嬉しい話でもありました。それが受けさせていただいたきっかけです。

【研修プログラム】

これから受け入れをしていく中で実際にどのようにやっていけばいいのかということ、まず考えさせていただいたときに、1番に私が思ったこととして、特別なことはしないようにしました。それは、大学生が来るから新しいことをやろうとしたり、その子のために何かプログラムを作ったりすると、普段の仕事を見てももらえないと1番に思いました。でするので、私としては、まず、普段通りの仕事をする。そして、その中で、逆に本人にもできる仕事とできない仕事があることをしっかり理解してもらおうというところを、まずは、1番に気を付けておこうと思いました。

実際にやっていただいた中で、やはり少し難しいと思うことがありました。途中、やりながら「ちょっとこれは、やっぱり荷が重いかな」と思うこともありましたし、事前準備が必要かということがありました。

ただ、教える中で私たちもやはり学ぶことが多いです。今は、もちろん対お客様というところがあるのですが、教えることによって自分を気付かされるわけではないのですが、留学の仕事ですので、急にビザの話が入ってしまったり、英語をどうしてもそのままを日

本語の中でも使ってしまう場合がありますので、理解できない言葉もあったと思います。彼がそう思うということは、お客さんも思っていますし、今後、部下が入ってきてもそのように思うことだと思ったので、それをどうしていけばいいのかということは、会社としても、とても参考になりました。

彼のために、今後、何をしていきたいかと考えたときに、インターンシップを受け入れる際にぜひ、お願いしたいと思ったことは、一番初めに彼が何をしたいのかということを知りたかったのです。御校の短大からも、多分、6名か7名程度、受け入れしていますが、一番初めに来て一番初めに私は「将来、何をしたいですか」と聞くようにしているのです。

そのときにインターンシップに来た学生は「事務系の仕事とかやりたいかな」「環境ビジネスに興味がある」という話をしてくれていたと思います。申し訳ないですが、正直に言って私は環境ビジネスとは、何をしているのかと思ってしまったのです。それは、将来、どのような仕事があるのかということが私も感じ取れないところがありました。もちろん、インターンシップは、仕事場によって仕事の内容は違うと思います。ただ、その中でも、仕事は多くあります。電話や、メールすることもあります。ただ、事務をすることもあります。なので、彼にとっては、私たちの仕事の中で、どれを作るのがいいのかということは、事前に聞いていたことと違ったところがありました、プログラムを作るときに。だから「環境ビジネスっていうことは、環境とかの構成にした方がいいのかな」と思っていたので「メール対応とか、そういう希望じゃないのかな」と思ったりしました。私は大使館にも行く予定がありましたので、大使館にも連れて行こうかと思っただけで「そういうのではないのかな」と思ったりして、実際にプログラムを作り直すことになりました。正確に言うと我々は、申し訳ないかもしれませんが、プログラムはあまり作っていませんでした。なので、その場その場で変えていったところがありました。

実際の研修の内容とその途中で留意したこととしましては、できる限り話しやすいようにするということです。一番は、やはり2週間という期間です。いきなり初対面のところで「仕事をしてください」と言われたら、周りの方に、「これ、どうやったらいいですか」ということに関しては私でも聞きづらいです。なので「何回でも聞いていいですよ」という雰囲気をまず一番に作ることでした。

あとは、私たちのオフィスにはスタッフが5名おります。誰がその場で聞いていい人なのかということを確認にしました。今回は、私にさせていただいたのですが、もちろん「誰に聞いてもいいですよ」と言ってしまうと、やはり皆が言っていることが違ってしまふことが一番怖いと思いましたので、私が代表して「私の所に、まず聞いてね」というスタイルにしておりました。

実際の研修内容に関しましては、先ほど配っていただきましたもの（下記「研修プログラム」参照）にあると思いますが、海外留学セミナーのサポート、電話、メール返信、日常業務と書いてあります。しかし、環境とビジネスを研究として取り組んでいるというこ

とでしたので、彼には海外のことを調べていただく方にどちらかという目線を置きました。

彼も面白いと思ったことです。皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが、ビッグマック指数というイギリスの『エコノミスト』誌で出しているものがあります。ただ、正直、今日日、大学生はビッグマックを食べないと思いました。ビッグマックの値段と言われてどうなるかと思ったのだけれども、彼には、それこそコカ・コーラ1本やシャンプーの値段や電車の運賃を調べてもらったときに、とてもまとめるのがうまかったのです。ただ、僕が気付いたのが1週間後ぐらいでした。もっと早く気付いてあげられれば、より一層、彼はいいものが出来たのではないかと思うところがありました。

そのときにいいものが出せていたのですが、少しワード使いがおかしかったりしました。ワードなのに黄色や赤を使っていたりするので「ちょっと色とりどりだね」というところや「あ、抜けている部分って、もしかしたら資料作成だったり読み手に対して考えるってところが抜けていたのだろうか」と思ったときに、私も、もっと1日のヒアリングを確実にしておければと思いました。

ですので、大学インターンシップを受け入れる前に、もし、お願いできるのであれば、その生徒さんがどういうことを勉強していて、どういうことを将来、少しでも考えているのか。完全に決まっているということはなかなか難しいと思いますが、ある程度は「こういう道に進もうかな」ということが分かるのであれば、最初に教えていただくと、私もそのときに、そこを中心に話をすることができると一番に思いました。

私は、実はごく最近ですが、キャリアカウンセリングという今年の3月から国家資格になる資格を取得しました。その中にあるジョブ・カードを皆さんはご存じだと思いますが、そのようなものを勉強しました。ジョブ・カードのイメージを先に出していただけると一番嬉しいかと思いました。仕事というとな何をしているのかというところですが、インターンプログラムの評価というわけではないのですが、事前にうれしいこととしては、私たちの仕事に来たときに「何を自分でしたいのか」「何ができるのか」というところをもう少し具体的に挙げてもらえるとうれしいと思います。そうすると、それは彼の勉強になるかと思えます。私たちのことを少しでも調べなければ、彼も書けないと思います、「こういうことをやりたい」というように。

ただ、あまり夢を持たせてしまうと「大使館に行ってなど期待が大きくなりますけど、それは無理だよ」というものがあります。しかし、ある程度、そのように言っただけであれば私もプログラムを作りやすかったというのが、感じたことでした。

【学生の印象】

第1印象に関しては、とても黙々と本当にやってくれる子でした。初めのときは「大丈夫かな」ということと、私も、結構、厳しく言ってしまうと悪いと思ったので「途中から来なくなったりしないようにしなくては」と少し考えてはいました。逆に、質問がなかつ

たので、僕の方から「大丈夫」と聞き過ぎていたかもしれないぐらい聞いていました。

ただ、そのときにも、本当に最後の2日目か3日目ぐらいに行ってくれて僕も驚いたことは、僕はミントのフリスクをよく食べるのですが、机の上に置いていたことを注意されたのです。「それって置いといていいんですか」と言われて「あ、ごめん」とお詫びしました。注意されると私も驚きました。ただ「あ、そこまで考えてくれてるのかな」ということと、正直言うと「それって本当に会社の一部になってくれたのかな」と僕は思いました。というのは、自分としては、あと3日ぐらいで終わる話なので、波風立てずに抜けていくことが一番いいと思います。「それ、置いといていいですか」、「それ、置かない方がいいと思いますよ」などといわれて「あ、すいません」と思ったので、僕は、内に秘めたものを持っているのではないですか。

ただ、そのように言える仲になれたことが、僕は、まず一番に嬉しかったことです。そのような関係を少しでも出来ていったこと、あとは、そのときに僕がどのような顔をしたのか分かりませんが、多分、インターンシップ生の方からのそのような意見は、とてもうれしいと思います。でも、何かアドバイスをもらえることは、なかなかやはりインターンシップ中には難しいと思いますが、僕は、それを一番の評価というのは変な話ですが、変わっていったところだと思います。

私は必ずインターンシップの最後のときに、オフィスの前のドアの所まで行き、お送りします。「本当にありがとうね。また何かあったら、おいで」と言ったら、何度も振り向いてくれるのです。本当に「やってよかったな」と思いました。「次の子には、もっともっと」というようにますますなってしまう、次の子にプレッシャーがかからなければよいのですが、そのような感じをととても僕は受けました。それが、彼に対する印象です。

【教員による巡回】

巡回は、私たちも助かります。学生さんには安心できる場合もあれば、多分、少し活を入れる場合もあると思います。可能であれば、もう少し早めでもよかったというところがありました。確か、チェックシートにもありましたが、もう少しパワハラがないかななどを確認するのが良いと思います。熱く言ってしまうときもあったかもしれないので、「そう言われると大丈夫かな」というときがありました。もう少し早めの関係性を作っている段階、3日目、4日目ぐらいだったら、後がもっと充実したかもしれないです。もしかしたら「自分でも、こういうふうに直したい」ということができるかもしれません。

【大学への提案】

実は、去年の秋頃に愛知県外の工業高校の先生が「インターンシップをさせてもらえないですか」とうちに来たのです。10年か20年、先生をやられたら一般企業を見に行くというようなプログラムで来られたようなのです。そういうことを、もし、全てのインターンシップ先を回ることは難しいのかもしれませんが、もし可能であれば、1日だけでも先生

方に私たちの仕事場を見ていただけるともしかしたら面白いかと思いました。多分、そうすることによって、先生方も生徒さんには伝えやすいのかと。1週間だと、やはり大変だと思いますし、私は3時間だけでも構わないと思いますが、それを少し経験していただくと、ということが一つ。もう一つは、私たちは、せっかく来るのだったら、少しでもこちらのことを知ってほしいという部分もあります。今は、どうしても私たちを紙の資料で見ているだけになってしまいます。

また、マッチングは先生方が選んであげて「こういう仕事場だよ」という話になると思うので、インターンシップ先が集まっての説明会のようなものをやることは難しいでしょうか。「私たちの事業は、このようなことをやっていて、このようなことをしています」と15分ぐらい時間をいただいてお話をします。それに対しての希望を出すということであれば、もしかしたら、もう少し事前勉強もしやすかったかと思います。

日本ワーキング・ホリデー協会 研修プログラム

月	日	曜	研修場所	研修時間	研修内容
8	24	月	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	海外留学・各国の案内セミナーなどのサポート 電話・メール返信などの日常業務
8	25	火	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	〃
8	26	水			休み
8	27	木	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	海外留学・各国の案内セミナーなどのサポート 電話・メール返信などの日常業務
8	28	金	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	〃
8	29	土	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	〃
8	30	日			休み
8	31	月	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	海外留学・各国の案内セミナーなどのサポート 電話・メール返信などの日常業務
9	1	火	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	海外留学・各国の案内セミナーなどのサポート 国際交流協会や議員会館・大使館へのご挨拶実習
9	2	水			休み
9	3	木	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	海外留学・各国の案内セミナーなどのサポート 電話・メール返信などの日常業務
9	4	金	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	〃
9	5	土			休み
9	6	日	名古屋オフィス	10:00-19:00 実働8時間	実習10日間での業務のまとめとその発表

